

| | | | | | |
|-----|-----------------|------|-------|------|-----|
| 科目 | 中小企業経営論 | 担当 | 傍嶋 則之 | 履修学年 | 2年 |
| 時間数 | 90分×時限×16回(週1回) | 履修区分 | 選択 | 単位数 | 2単位 |

【授業目標・到達目標】

この授業では、経済のグローバル化が進展するなかで、我が国の多くの既存企業が国際競争力を失い、いわゆる「失われた10年」を過ごしてきた中で、産業構造の変化が強く求められ、多様な分野で新たな事業を創造し、新しい市場の開拓に挑戦している中小企業に対する関心が急速に高まっている。また、地域に根を張り、地域を起業活動の場としている中小企業は地域経済、地域社会の担い手として注目されている。しかし、中小企業に対する期待と役割が高まっている一方で、実際の中小企業は厳しい経営環境に直面していることも事実であり、この授業では、現在の中小企業が抱えている問題と課題を客観的に描いていきたいと考えている。

【履修注意】

- ①日本経済状況や国の施策に影響を受けやすいので、常にその動向に注意を払うこと
- ②毎年5月頃に発表される「中小企業白書」の内容に注意を払うこと

【評価方法】

1. 出席と受講態度を重視する。中間・定期試験の結果は平均し、定期試験を優先し成績評価
2. 授業中に必要に応じて理解度の小テストを行う

【試験について】

(ノート持込可、文章の完成、用語の説明問題等を中心に主題)

再試験対象者の条件:出席条件や受講態度を前提に中間・定期試験を受験し平均点30点以上の受講生

【予習・復習】

学修時間は1単位45分が文部科学省指針であり、1単位科目は90分の講義に対して45分、2単位科目は90分の講義に対して90分の自宅学習(予習、復習)が必要である。

【教科書】

パワーポイント教材で対応

【参考書】

参考書「現代日本の中小企業」(岩波書店)、「中小企業白書(各年度版)」(ぎょうせい)、「中小企業論(第4版)」藤田敬三・竹内正己編、「産業集積の再生と中小企業」(世界思想社)講義内で適宜指示する

【その他の注意事項】

【授業計画・内容】

| 回数 | 項目 | 内容 |
|----|---------------|------------------------|
| 1 | 経済発展と中小企業 | 中小企業の「問題性」 |
| 2 | 国民経済と中小企業 | 国民経済での中小企業の役割 |
| 3 | 産業組織と中小企業 | 競争力強化の為の効率的産業組織 |
| 4 | 中小企業の経営問題 | 中小企業における経営 |
| 5 | 中小企業の金融問題 | 小規模事業者振興資金、県制度融資 |
| 6 | 中小企業の労働問題 | 中小企業の労働政策 |
| 7 | 技術開発と中小企業 | 工業技術院、各都道府県公設試験研究所 |
| 8 | 中間まとめ | 前半講義の理解度を確認する |
| 9 | 流通構造の変革と中小企業 | 流通業における中小商業の地位と役割 |
| 10 | サービス経済化と中小企業 | サービス経済における中小企業の役割 |
| 11 | 地域コミュニティと中小企業 | 地域の取組みと企業の地域集積 |
| 12 | 国際化と中小企業 | 貿易構造の変化と中小企業 |
| 13 | 中小企業の組織化 | 中小企業における組織化 |
| 14 | 中小企業政策の課題(1) | 戦後中小企業の歴史と中小企業施策の移り変わり |
| 15 | 中小企業政策の課題(2) | 戦後中小企業の歴史と中小企業施策の移り変わり |
| 16 | 期末試験 | 15コマの復習・確認・総まとめ |